

町の図書館が取り組む「医療と健康」

－企画展示「からだと向き合う」を中心に－

吉田 めぐみ
紫波町図書館

1 背景

紫波町図書館は、町の課題を取り上げる月替わりの企画展示の中で、2017年から町の医療と健康をテーマとした展示を続けており、今年度までに「認知症」「がん」「心の不調」「感染症」「在宅医療」「発達障害」の6つのテーマに取り組んできた。

企画展示のテーマは、①町に今なにが起こっているか ②なにが必要か ③今後の町の展望 を主軸に決められるが、医療と健康について取り組むこととなったきっかけは、町民が身近な図書館で得たい情報とは何かということに向き合ったことによる。医大図書館ではない当館ならではの情報提供のあり方は、当事者が正しい医療健康情報にたどり着く支援に加え、相談先や支援制度など地域事情の発信、さらに当事者だけでなく周囲の理解を深めてより暮らしやすい町へと変化を起こすものであると考え、企画展示に取り組むこととなった。

2 方法

展示では、町の担当部署や患者会などのインタビューやおすすめ図書、相談方法のチャート表、全国の先進事例などを紹介する。準備の過程で、関係者への取材を重ねながら、町民に必要な情報は何か、町に足りないものは何か、などを明らかにしていく。資料に関して岩手医大付属図書館や、専門家に助言をいただくことも多い。展示の結果、相談会や講演会、介護用具の体験会などへ発展することもある。

3 効果

目に見える効果として、「認知症」展示で町内に認知症カフェが無いことを知った方の働きかけにより、紫波町で認知症カフェが定期開催されるようになった。「在宅医療」展示では、ACP への関心が高まり、地元の医療従事者グループと連携して ACP カード体験会の開催へとつながった。また、取材をきっかけに専門家や関係者と図書館が結びつくことにより、日頃のレファレンスサービスの充実につながっている。